発生土利用基準(案)

一 目的

本基準(案)は、建設工事に伴い副次的に発生する土砂や汚泥(以下「発生土」という。)の土質特性に応じた区分基準および各々の区分に応じた適用用途基準を示すことにより、 発生土の適正な利用の促進を図ることを目的とする。

二 適用

本基準(案)は、発生土を建設資材として利用する場合に適用する。ただし、利用の用途が限定されており、各々の利用の用途に応じた基準等が別途規定されている場合には、別途規定されている基準等によるものとする。

三 留意事項

本基準(案)を適用し、発生土を利用するにあたっては、関係法規を遵守し、特に生活環境の保全に留意しなければならない。

四 土質区分規準

(1) 土質区分

発生土の土質区分は原則としてコーン指数と日本統一土質分類を指標とし、表 - 1 に示す土質区分規準によるものとする。なお、土質改良を行った場合には、改良後の性状で判定するものとする。

(2) 土質区分判定のための調査試験方法

土質区分判定のための指標を得る際は、表 - 2 に示す土質区分判定のための調査試験方法を標準とする。

判定指標	試験項目	試験方法
コーン指数 *1)	締固めた土のコーン指数試験	JSF T 716
日本統一土質分類	土の工学的分類方法	JSF M 111
土 の 粒 度	土の粒度試験	JSF A 1204
液性限界・塑性限界	土の液性限界・塑性限界試験	JSF A 1205
自然含水比	土の含水比試験	JSF A 1203

表 - 2 土質区分判定のための調査試験方法

*2) 改良土の場合は、コーン指数のみを測定する。

^{*1)} 上記試験方法に準備する。ただし、1 層ごとの突固め回数は、 25 回とする(参考表 - 1 参照)。

五 適用用途標準(案)

発生土を利用する際の用途は、土質区分に基づき、表 - 3 (表 - 3 の 1 、表 - 3 の 2) に示す適用用途標準(案)を目安とする。

表-3の1 適用用途標準案(1) 用途 道路(路床)盛土 工作物の埋戻し 土木構造物の裏込め 道路路体用盛土 評 付帯条件 付帯条件 付帯条件 付帯条件 土質区分 価 価 価 価 第1種 0 最大粒径注意 0 最大粒径注意 0 最大粒径注意 0 最大粒径注意 発生土 第1種建設発生土 (砂、礫及びこれらに準 ずるもの) 第1種 0 0 0 0 改良土 第2a種 0 最大粒径注意 0 最大粒径注意 0 最大粒径注意 0 最大粒径注意 発生土 第2b種 0 0 0 0 発生土 第2種建設発生土 (砂質土礫質土及びこれら に準ずるもの) 第2c種 粒度調度 0 0 0 0 安定処理 発生土 第2種 0 0 0 0 改良土 施工上の工夫 粒度調度 施工上の工夫 第3a種 含水比低下 0 含水比低下 0 0 0 含水比低下 発生土 安定処理 安定処理 安定処理 第3種建設発生土 (通常の施工性が確保され 第3b種 施工上の工夫 施工上の工夫 安定処理 0 0 0 Δ る粘性土及びこれに準ずる 発生土 安定処理 安定処理 もの) 第3種 施工上の工夫 ○ 施工上の工夫 施工上の工夫 Δ 0 0 改良土 施工上の工夫 施工上の工夫 第4a種 安定処理 安定処理 0 含水比低下 0 含水比低下 発牛土 安定処理 安定処理 第4種建設発生土 第4b種 施工上の工夫 施工上の工夫 (粘性土及びこれに準ずる 安定処理 Δ 安定処理 0 0 安定処理 発生土 安定処理 もの(第3種発生土を除く)) 第4種 〇 施工上の工夫 〇 施工上の工夫 × 改良土 施工上の工夫 安定処理 泥土 a △ 安定処理 △ 安定処理 △ 含水比低下 Δ 安定処理 (泥土)*1) 施工上の工夫 含水比低下 (浚渫土のうちおおむねqc2 泥土 b △ 安定処理 安定処理 安定処理 0 Δ Δ 以下のもの及び建設汚泥) 安定処理 泥土 c × × × ×

表-3の2 適用用途標準案(2)

	用途		河川		50/2 旭州 堤	1302	土地	造	成		-V-
			高規制防		一般想防		宅地造成	7.	湿绿地		水面埋立て
土質区分		評価	付帯条件	評価	付業件	評価	付帯条件	評価	付帯条件	評価	付帯条件
第1種書発生土(砂、礫及びごれら	第1種 発生土	0	最大粒径 磯昆入率主意	0	最大粒径:這	0	最大粒径 磯昆入率主意	0		0	_
に準ずるもの)	第1種 改良土	0		0		0		0		0	_
第2種書発生土 (砂質土礫質及び	第2a 種発生 土	0	最大粒径 磯昆入率注意	0	最大粒径注意	0	最大粒径 磯昆入率注意	0		0	_
これらに準ずるもの)	第2b 種発生 土	0	-	0	-	0	-	0	-	0	_
	第2c 種発生 土	0	_	0	_	0	_	0	_	0	_
	第2種 改良土	0		0	-	0	-	0	1	0	_
	第3a 種発生 土	0	-	0	-	0	1	0	1	0	-
	第3b 種発生 土	0		0		0	-	0		0	_
	第3種 改良土	0		0		0		0	1	0	-
第4番書発生土 (粘性土及びこれ	第4a 種発生 土	0	施工上の工夫 含水比低下 安定処理	0	施工上の工夫 含水比低下 安定処理	0	施工上の工夫 含水比低下 安定処理	0	施工上の工夫 含水比低下 安定処理	0	
に準ずるもの(第3 種発生土を除く))	第4b 種発生 土	Δ	安定処理	0	施工の工夫 安定処理	0	施工の工夫 安定処理	0	施工の工夫 安定処理	0	
	第4種改良土	Δ	安定処理	0	施工の工夫	0	施工の工夫	0	施工の工夫	0	
(泥土)*1) (浚渫土のうちおお	泥土 a	0	施工上の工夫 含水比低下 安定処理	0	施工上の工夫 含水比低下 安定処理	0	施工上の工夫 含水比低下 安定処理	0	安定処理	0	施工上の工夫 安定処理
むねgc2以下のも の及び建設方尼	泥土 b	Δ	安定処理	0	施工上の工夫 含水比低下 安定処理	Δ	安定処理	0	施工上の工夫 含水比低下 安定処理	0	施工上の工夫 安定処理
	淀土 c	×		×		×		Δ	安定処理	Δ	安定処理

*1)泥土のうち建設ち記よ、廃棄物処理おこ定かられた手続きが必要である。

凡例[評価 ◎:そのままで使用可能はの

- 〇.施工上の工夫、もしくは、簡易な土質改良(安定処理を含む)を行えば使用可能はもの
- △:安定処理去等の土質改良を行えば使用可能はたの
- ×:使用が不適はの

[付滞条件] 一: 充分が施工を行えば、そのまま使用できるもの /: 土質改良、施工上の工夫をしても、使用が不適まの

土質区分基準 表-1

		 		日本統一土質分類	備	備考*2)
区分 (建設省令)	土質区分	ゴーブ 指数 qc*3)	中分類	五	含水比 (地山) Wn (%)	堀削方法
第1種建設発生士	第1種発生土		(S) (9)	樂		
、び、楽众のこれのに 準ずるもの)	第1種改良土)	(改良土)*6)		
第0番書の発仕士	第2 a 種発生土		(GF)			
第24里年727光生工人工的第一人的第一人的第一人的第一人	第2b種発生土	- L	(13)	砂質土(F c 15~25%)		デュー 半日 イギュー
(写画十、新画十分) 「十七二十半二十十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	第2 c 種発生土	。 一 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	(or)	砂質土(F c = 25 ~ 50%)	30%程度以下	・許人にも悪ッのが、一家子、辿出若下予祭
しいのに生みのもの)	第2種改良土			(改良土)		・ はん、 ダロッのトグルート こうぐそ てき
第3種建設発生士	第3 a 種発生土		(SF)	砂質土(F c = 15~25%)	30~50%程度	ころう四小にが増加すると名は、大きとの名は、
(通常の施工性が確保)	知って猛然仕十	1 N L	(M) , (C)	おは二 おは二	40%程度以下	9 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
おれる粘性士及びこれ	おうり煙光エエ	+ 子 十	(\)	火山灰質粘性土		ロマ、角双面かのーー、カイトのトライナー
に準ずるもの)	第3種改良土			(改良土)		ノノントの合力に多
第1番字5系件十	第4 a 種発生土		(SF)	砂質土(F c = 15~25%)		の。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
光4年年成光十十~半年十九2~十十十二		4	(M),(C)	シルト、粘体土	40~80%程度	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(台)は一人人のこれが日本では、1年1年1年1年1年1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1	第4b種発生士	999 1717	(\)	火山灰質粘性土		日は、年段目かの2ージカドのアウド
からもの(光の神光十十十二)			(0)	有機質土	40~80%程度	ノノントの合力に多
イン・プラ	第4種改良土			(改良土)		ô
(*(十四)	泥土 a		(SF)	砂質土(F c = 15~25%)		
(MEH)) (WEH)) (WEH))		+ + +	(M) ' (C)	おいて おは土	80%程度以上	
へダボージンの50つちょう ファイン・ショントラー はったい アード・アード はんしょう アード・アード・アード・アード・アード・アード・アード・アード・アード・アード・	泥土り	995 1575	(\)	火山灰質粘性土		
184~2%~200次の. ほもがにいる 単語 手につ		<u>.</u>	(0)	有機質土	80%程度以上	
() () () () () () () () () ()	泥土 c		(Pt)	高有機質士		

*1) 泥土のうち建設汚泥は、廃棄物処理法に定められた手続きが必要である。

*2) 計画段階(堀削前)において土質区分を行う必要があり、コーン指数を求めるために必要な資料を得られない場合には、日本統一土質分類と備考欄の含水比(地山)、堀削方法から概略の土質区分を選定し、堀削後、所定の方法でコーン指数を測定して、土質区分を決定する。

*3) 所定の方法でモールドに締固めた試料に対し、ポータブルコーンベネトロメータで測定したコーン指数(参考表 - 1参照)。

*4) 表中の第1種~第4種及良土は、土(汚土を含む)に改良材を混合し、化学的に性状を改良したものである。
例えば、第3種改良土は、第4種発生土または泥土を安定処理し、QC以上の性状に改良したものである。

*5)含水比低下、粒度調整など物理的な処理を行った場合には、処理後の性状で再度判定し、改良土としてではなく、

*6)第1種改良土は、礫、砂状を呈するもの。 発生士として土質区分を判定する。